

日本音楽教育学会 ニュースレター 第12号

Japan Academic Society for Music Education: News Letter No.12 2003 6/30

目 次

編集委員会報告	2
『音楽教育実践ジャーナル』投稿募集	3
『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定	3
原稿募集のご案内	4
2003年夏期ワークショップのお知らせ	4
平成15年度第1回常任理事会・第1回理事会報告	5
日本音楽教育学会第34回全国大会のお知らせ	9
学会のオフィシャルロゴマーク及び	
『音楽教育実践ジャーナル』表紙デザイン募集	9
平成14年度修士論文題目	10
住所・所属変更及び新入会員住所	16
藤川一芳先生のご逝去を悼む	21
編集後記	21
国際会議案内	22

編集委員会報告

編集委員長 安田 寛

去る4月26日に東京芸術大学音楽教育研究室において本年度の第1回編集委員会議を行い、新しい編集委員会が出発しました。新たな委員は次の4名です。伊野義博（新潟大学）、木村次宏（福岡教育大学）、熊木眞見子（筑波大学附小学校）、藤田芙美子（名古屋芸術大学）。経験と年齢においてバランスのよい委員会になったのではないのでしょうか。

この新委員を含めた委員の互選によって、加藤富美子前委員長の後を私が引き受けることになりました。前委員長のように明快な裁断ができるかどうか不安なまま重責を担うことになりました。どうか皆様の温かい支援をお願いします。副委員長には、委員全員の強い希望によって、ご本人の固辞にもかかわらず藤田芙美子委員に引き受けていただきました。

引き続き、開かれた編集委員会を目指したいと思いますので、投稿はもちろん、その他なんでもどしどしご意見をお寄せくださるようお願いいたします。

なお、3月までいっしょに苦労してきた、加藤富美子（東京学芸大学）、小川昌文（上越教育大学）、阪井恵（明星大学）、原田宏司（広島文化短期大学）の旧委員の方々には、会員の皆様とともに「本当にご苦労さま」と労いの言葉をかけさせていただきたいと思います。

さて、第2学会誌は「音楽教育実践ジャーナル」と名称も決まり、いよいよ出発します。その第1号の発行が新委員会の大きな仕事になります。それに伴い、委員はこれまでのように投稿を待つ仕事をするだけでなく、委員自ら原稿を集めるため積極的に活動することが求められます。「特集」の企画について案をお持ちの会員、「今、これが面白い」といったお考えをお持ちの

会員はぜひ委員まで情報をお寄せください。

それは新しい「音楽教育実践ジャーナル」をよいものにするだけでなく、掲載論文の過少においてやや停滞気味のこれまでの学会誌を活発にするための突破口になることが期待されるからです。

これに関連して、学会誌に掲載された反論とこれから掲載されるであろう反論の反論がみなさまの耳目を集めているかもしれません。

反論の取り扱いについては編集委員会で熱心な議論を交わした後、「原則としてそのまま掲載する」という基本方針を決定しました。

その理由としては、(1) 論争を会員で共有すること、(2) 論争を通じて問題の認識の深化を期待すること、(3) 反論を委員会で査読すれば、委員会が検閲機関になる危険が生じ、それは避けること、そして最後に(4) 論争に対して過度に神経質になる風潮に捕らわれず、もっと気軽に率直に論争することに会員が慣れることで、研究に対する議論を活発にすること、が主なものでした。

したがって、いわゆる公序良俗に反しない限り、編集委員会は投稿された反論はそのまま掲載いたします。会員の皆様のご理解をお願いします。

ということで、前途に悪天候を十分に予測しながらも、敢えて碇を上げた気分で新しい編集委員会は碇泊港を出発しました。しかし、会長の強い願いである、「学会は面白い」と言われるように、委員一同、粉骨砕身して任に当たる所存です。最後にもう一度、決して選挙演説のつもりはないのですが、皆様の温かいご支援を賜うことを切にお願いする次第です。

『音楽教育実践ジャーナル』投稿募集

編集委員長 安田 寛

新しい学会誌『音楽教育実践ジャーナル』が8月末にいよいよ創刊されることになりました。編集委員会規定には「本学会会員の実践的な音楽教育研究（特集記事，実践報告，討論，提案，書籍紹介等）を掲載する」と書かれています。

創刊号の特集記事は全て依頼原稿となりますが，特集記事以外については会員からの投稿で構成されます。音楽教育に関する活発な投稿を期待しています。創刊号に掲載の原稿締切は平成 15 年 7 月末日（必着）となっています。

なお，投稿規定 3 - 1 にあるように，投稿は随時受け付けています。

以下の投稿規定にのっとり，ぜひ原稿をお寄せください。

『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定

1．投稿資格

投稿者は本会正会員，名誉会員，特別会員に限る。ただし，共同執筆の場合は，筆頭者以外についてはこの限りではない。

2．執筆要領

- (1) 投稿は，原則として音楽教育に関するものとし，未発表のものでなければならない。
- (2) 本誌への投稿は，実践報告，討論，提案，書籍紹介等，実践的な音楽教育研究とする。
- (3) 用いる言語は日本語とする。句読点は「，。」を使用する。
- (4) 投稿文の分量については，本文，注，譜例，図版，図表，写真等を含めて，最長で原稿用紙（400 字）50 枚程度とする。
- (5) 原稿の 1 枚目（あるいは表紙）に，「音楽教育実践ジャーナル原稿」と明記し，タイトル（副題），所属・氏名（ふりがなをつける），連絡先の住所および電話番号（FAX，E-mail）を記載すること。
- (6) 注，引用，参考文献の書き方については『音楽教育学』に準じるものとする。
- (7) 図版，図表，譜例，写真等の扱いについては，『音楽教育学』に準じるものとする。

3．原稿の送付

- (1) 原稿は随時受け付ける。
- (2) オリジナル原稿（プリントアウトしたもの）1 部とコピー 1 部，計 2 部を提出すること。ワープロ使用の場合，フロッピーディスク（テキストファイル）を添付すること。
- (3) 送付先は下記宛とする。
〒184-8799 小金井郵便局私書箱 26 号
日本音楽教育学会 編集委員会
- (4) 送付方法は郵便のみとする。
- (5) 提出された原稿，フロッピーディスクは原則として返却しない。

4．原稿の採否など

- (1) 原稿の採否は編集委員会が決定する。なお，編集委員会は必要に応じて執筆者に修正を求めることがある。
- (2) 掲載号は編集委員会が決定する。

5．校正

- (1) 校正は，初校のみ執筆者が，それ以降は編集委員会が行う。
- (2) 著者校正は，印刷上の誤り以外の修正や挿入を行ってはならない。

原稿募集のご案内

編集委員長 安田 寛

日ごとに暑くなってまいりましたが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。さて、編集委員会では、『音楽教育実践ジャーナル』第2号の特集に向けて下記の要領で原稿を募集いたします。投稿に際して、書式、字数などは『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定をご覧ください。なお、採択された原稿については、1月末日までに編集委員会から投稿者にご連絡いたします。

1. 特集タイトル：「今、保育における音楽を考える（仮）」
2. 企画担当委員：今川恭子・南曜子
3. 原稿締切：2003（平成15）年12月末日（必着）
4. 特集の趣旨：

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』に領域「表現」が登場して10年以上が経ちました。これは、保育の日常に見いだされる子どもの音楽性の現れとその育ちを見直し、尊重するようになる好機と捉えられた一方で、保育において積極的な音楽指導が見られなくなることを案じる声も聞かれました。今、保育と保育者養成の現場では、表現の領域をどのようにとらえ、実践しているのでしょうか。そこには、どのような成果と、どのような問題が生じているのでしょうか。

私たちは子どもたちと音楽の未来のために、今この時期に、保育の現場に密着した検証をする必要があります。それは、音楽教育に関心を持っているすべての会員にとっても重要な課題ではないでしょうか。

そこで『音楽教育実践ジャーナル』第2号では保育における音楽の問題を考える特集を組みたいと思います。

実践報告、提案、意見など、保育現場での音楽の問題にかかわるものであればどのようなものでも結構です。皆様の活発な参加を期待しております。

2003年夏期ワークショップのお知らせ

2003年夏期ワークショップ・プロジェクトチーム
(加藤富美子, 島崎篤子, 坪能由紀子, 丸山忠璋)

日本音楽教育学会主催のワークショップを、8月28(木), 29(金)日の両日、東京目白の日本女子大学で行うことになりました。ワークショップ・リーダーは岡田加津子氏(京都市立芸術大学講師), 山内雅子氏(東京都小金井市立小金井第一小学校)です。岡田氏がボディ・パーカッションのワークショップ, 山内氏は日本の音楽による授業づくりについてのワークショップを行います。

詳細及び申し込みについては同封のチラシをご覧ください。

平成 15 年度第 1 回常任理事会・第 1 回理事会報告

平成 15 年度第 1 回常任理事会

日時：平成 15 年 4 月 26 日（土）13:30

場所：東京芸術大学音楽教育研究室

平成 15 年度第 1 回理事会

日時：平成 15 年 4 月 26 日（土）15:00

場所：東京芸術大学音楽教育研究室

出席：村尾・坪能・平井・筒石・加藤・杉江・重嶋・島崎・丸山・浅井・丸林・伊藤・今川・
小山・阪井・山本・伊野・南・中原・野波・吉富・田邊・木村・岩崎（会計監事）

欠席：奥・北山・藤沢・竹内

【報告事項】

- 1) 第 7 回音楽教育ゼミナール会計報告
資料により提出，余剰金 100 万円をゼミナール基金とした旨報告された。
- 2) 各種委員会報告
 - ・30 周年記念事典編集委員会（山本理事）
助成金を申請していた 3 つの財団のうち
ロームミュージックファンデーション
100 万・芸術研究振興財団 170 万と 2 個
所から計 270 万の補助が確定した。日本
学術振興会の方は見送りとなった。
これを基に音楽之友社において出版経費
の再見積をすることとなった。（5 月下
旬に判明）
今後の日程：連休明けから編集委員チェッ
ク・5 月下旬編集委員会・6 月末までに
図版関係の点検完了・7 月に完成日確定
 - ・編集委員会（坪能編集委員）
15 年度第 1 回編集委員会が本日 11:00
から行われ，委員の交替により新編集委
員長：安田寛氏，副委員長：藤田芙美子
氏が決められた。
第 33-1 号の内容が示された。
第 2 学会誌の編集・運営等について検討
された。次回ニュースレターで原稿募集。
第 2 学会誌の第 1 号は 8 月末発行予定。
反論に対する編集委員会の見解を表明す
る必要があるこの件に関してはニュース
レターに新編集委員長が書くことになっ
た。
 - ・音楽文献目録委員会（今川委員）
15 年度第 1 回が 4 月 5 日明治大学にて

決算報告等が行われた。

- 3) 各地区例会報告 15 年度予定
 - 北海道 月日未定（北海道教育大学札幌校）
 - 東北 16 年 1 月末（弘前大学）
 - 関東 16 年 2 月（東京芸術大学）
 - 北陸 年 2 回を予定し夏（上越教育大学）
 - 東海 15 年 7 月（名古屋音楽大学）
 - 近畿 15 年 5 月 10 日（滋賀大学）
 - 中国 月日未定（岡山大学）
 - 四国 15 年 8 月 2 日（香川大学）
 - 九州 月日未定（佐賀大学）

【協議事項】

- 1) 学会誌編集委員の承認について
下記の 4 名が承認された。
新任
伊野 義博（新潟大学）
木村 次宏（福岡教育大学）
熊木真見子（筑波大学附属小学校）
藤田芙美子（名古屋芸術大学）
- 2) 平成 14 年度会計決算報告（杉江会計
担当理事），監査報告（岩崎会計監事）
資料に基づいて行われた。会計報告は第
34 回大会プログラムに掲載。
15 年度補正予算の提案（杉江会計担当
理事）
14 年度の繰越金より研究出版基金に
100 万を繰り入れた旨説明があり承認さ
れた。総会に提出する。（補正予算案
9 頁を参照）
- 3) 平成 16 年度事業計画及び予算について
・事業計画（筒石事務局長）

【平成 16 年度事業計画（案）】

平成 16 年 5 月中旬	平成 15 年度会計監査 平成 16 年度第 1 回編集委員会 平成 16 年度第 1 回常任理事会 平成 16 年度第 1 回理事会
6 月中旬 末日	学会誌第 34-1 号発行・ニュースレターNo.16 研究発表（口述）申し込み〆切 平成 16 年度第 2 回編集委員会
7 月上旬	第 2 回常任理事会 研究発表受理通知
8 月下旬	日本音楽教育学会夏期ワークショップ
8 月下旬	音楽教育実践ジャーナル 3 号発行・ニュースレターNo.17 第 3 回編集委員会 第 3 回常任理事会 第 2 回理事会
12 月中旬	第 35 回大会 会場：武蔵野音楽大学
平成 17 年 2 月初旬	学会誌第 34-2 号発行・ニュースレターNo.18 第 4 回編集委員会 平成 16 年度第 4 回常任理事会
3 月末日	音楽教育実践ジャーナル 4 号発行・ニュースレターNo.19 平成 16 年度会計決算
(月日は未定)	

【平成 15 年度事業計画（参考資料）】

平成 15 年 5 月中旬	平成 14 年度会計監査 平成 15 年度第 1 回編集委員会 平成 15 年度第 1 回常任理事会 平成 15 年度第 1 回理事会
6 月中旬 末日	学会誌第 33-1 号発行・ニュースレターNo.12 研究発表（口述）申し込み〆切 平成 15 年度第 2 回編集委員会
7 月上旬	第 2 回常任理事会 研究発表受理通知
8 月下旬	音楽教育実践ジャーナル 1 号発行・ニュースレターNo.13
10 月 17 日（金）	第 3 回編集委員会 第 3 回常任理事会 第 2 回理事会
18 日（土）	第 34 回大会 会場：神戸大学
19 日（日）	〃
12 月中旬	学会誌第 33-2 号発行・ニュースレターNo.14
平成 16 年 2 月初旬	第 4 回編集委員会 平成 14 年度第 4 回常任理事会
3 月末日	音楽教育実践ジャーナル 2 号発行・ニュースレターNo.15

- ・平成 15 年度会計決算
- ・16 年度予算案（杉江会計担当理事）
新学会誌のスタートにより印刷費を増加することとなった。他は 15 年度と同様の予算（第 34 回大会プログラムに掲載）
- 4）第 34 回（神戸大学）大会について（岩井大会実行委員長）
- ・日程について
10 月 18 日（土）午前：研究発表
午後：基調講演・シンポジウム・アトラクション・総会・懇親会
10 月 19 日（日）午前：研究発表
午後院生フォーラム・プロジェクト研究
- ・プロジェクト研究について
9 件の応募について全部をプロジェクト研究として扱うには時間・教室等の問題があり、今後どのようにするか様々の意見が出されたが、次回常任理事会で検討することとなった。本年度は、会場のスペース、時間の理由により、発表者の人数、テーマ等を加味して 4 件に絞り、1 件は見送りとし、後は一般研究発表の枠に共同研究として移すことになった。この時の名称については、ラウンドテーブル、パネルディスカッション等など発表者の方に任せることにした。
- 5）第三次「学会運営検討委員会」の諮問事項について（阪井委員）
藤沢委員長よりの資料に基づき説明された。文章を一部訂正して総会に提出する。
- 6）第 35 回大会（2004）の開催地について
武蔵野音楽大学に決定
- 7）新学会誌の名称、運営について
検討した結果「音楽教育実践ジャーナル」「Journal of Music Education Practice」に決定。
音楽教育実践ジャーナル投稿規定が定められた。
- 8）学会英語表記の改正について
「Japanese Music Education Society」という表記を総会に提出する。
- 9）学会ロゴマークについて
新英語表記を基にニュースレターで公募する。

- 10）第 8 回ゼミナールについて
平成 17 年上越教育大学を予定。
 - 11）入会規則の改定について
現在 2 名の推薦者を必要とするが 1 名に改訂することを承認した。総会に提出する。
 - 12）新入会員及び退会者の承認
新入会員：下記の 3081 番～3100 番までの 20 名を承認
申し出退会者：ご逝去 5 名を含む 39 名を承認
正会員
- | | | |
|------|-------|------------|
| 3081 | 藤野 久美 | 広島大学院生 |
| 3082 | 植野 洋美 | フェリス女学院大学 |
| 3083 | 川端英美歌 | 北海道教育大学札幌校 |
| 3084 | 赤繁 陽子 | 琉球大学院生 |
| 3085 | 古謝麻耶子 | 琉球大学院生 |
| 3086 | 茅野 紫 | 山梨大学附属小学校 |
| 3087 | 篠田 暁子 | 大阪芸術大学 |
| 3088 | 松下 行馬 | 神戸市立大沢小学校 |
| 3089 | 大塚 千香 | 多摩市立瓜生小学校 |
| 3090 | 石川眞佐江 | 東京芸術大学院生 |
| 3091 | 曹 念 慈 | 広島大学院生 |
| 3092 | 高田 艶子 | 広島大学院生 |
| 3093 | 裏 珉 唧 | 日本女子大学院生 |
| 3094 | 若尾 裕 | 神戸大学 |
| 3095 | 大田美佐子 | 神戸大学 |
| 3096 | 佐野 和彰 | 東京学芸大学院生 |
| 3097 | 勝冶 友美 | 東京学芸大学院生 |
| 3098 | 柴崎かがり | 東京学芸大学院生 |
| 3099 | 小山 涼子 | 東京学芸大学院生 |
| 3100 | 石川 裕司 | 東京学芸大学院生 |
- 4 月 26 日現在 1620 名
- 13）その他
 - ・夏期ワークショップについて
下記のように提案され承認された。
月日：平成 15 年 8 月 28 日（木）、29 日（金）
場所：日本女子大学、目白校舎
日程：28 日 13:30 17:30
29 日 10:00 12:00、13:30 15:00
内容：2 種類のワークショップを行う
1．パフォーマンス・コース
2．授業づくりコース
参加費：2 日間 5,000 円
1 日のみ 3,000 円
参加人数：各先着 30 名
詳細についてはニュースレター 12 号を参照

日本音楽教育学会平成15年度補正予算(案)

一般会計

収				支			
科目	14年度予算	14年度決算	15年度補正予算	科目	14年度予算	14年度決算	15年度補正予算
前年度繰越金	789,960	2,976,534	4,140,054	大会運営費	1,500,000	1,487,843	1,500,000
正会員会費	9,940,000	9,803,000	10,290,000	大会本部経費	700,000	700,000	700,000
			(7000×1470)	事務局経費	600,000	587,843	600,000
学生会員会費		12,000		ｼﾞｮｲﾝﾄｲﾝﾀﾞﾐﾅﾘｰ研究	200,000	200,000	200,000
団体会員会費	50,000	50,000	60,000	印刷費	2,750,000	2,358,615	2,780,000
賛助会員会費	490,000	370,000	370,000	学会誌費	2,350,000	1,981,980	2,380,000
学会誌売上金	380,000	523,710	350,000	ﾆｰｽﾞ-ｽﾏﾙﾄﾞ-費	400,000	376,635	400,000
本代				例会運営費	800,000	692,800	900,000
送料				通信・郵送費	1,100,000	1,083,020	1,100,000
大会参加費	1,300,000	1,152,250	1,300,000	会議費	200,000	144,985	200,000
			(4000×325)	旅費・交通費	1,700,000	1,855,400	1,700,000
				宿泊費	200,000	104,000	200,000
				事務局費	3,000,000	2,813,065	3,000,000
第7回ﾃﾞﾐﾅﾘｰ返金		400,000		事務費	320,000	303,633	320,000
第7回ﾃﾞﾐﾅﾘｰ収益金		1,000,000		人件費	1,630,000	1,610,000	1,630,000
学術会議報告書売上げ		9,600		事務局運営費	1,050,000	899,432	1,050,000
雑収入	200,000	14,601	20,000	分担金	140,000	140,000	140,000
				選学費	150,000	150,000	150,000
				退職引当金	20,000	20,000	20,000
				研究出版基金	0	0	1,000,000
				学会基金	0	0	0
				ﾃﾞﾐﾅﾘｰ積立金	0	0	150,000
				ﾃﾞﾐﾅﾘｰ基金		1,000,000	
				予備費	800,000	321,913	800,000
				次年度繰越金	789,960	4,140,054	2,890,054
計	13,149,960	16,311,695	16,530,054	計	13,149,960	16,311,695	16,530,054

日本音楽教育学会第34回全国大会のお知らせ

2003年10月18日(土)・19日(日)

会場：神戸大学(神戸市灘区)

大会実行委員長 岩井正浩(神戸大学)
同 事務局長 五味克久(神戸大学)

今年は港町・神戸で全国大会を開催することになりました。大会テーマは国際都市・神戸のロケーションを生かし、「国際化社会の音楽教育(Music Education in Globalized Societies)」を設定しました。基調講演、シンポジウム、そしてプロジェクト研究では、このメインテーマに基づいた内容が企画されています。グローバル・スタンダード、アメリカン・スタンダード、さらにはダブル・スタンダードなど、地球上で画一化や均質化が敷衍しつつある中で、価値観の多様化、文化の多様化を問い、思考(志向)する一つの機会を設定しました。

開催大学である神戸大学は、教育学部が改組され、発達科学部となって11年が経過しました。そして現在も再び改革の最中にあります。研究・教育体制は次第に厳しくなる中、学部、博士課程前期・後期課程の学生が学んでいます。

今回は会場の確保が困難で、最終的には2つのキャンパスを使用することとなりました。分科会とプロジェクト研究は発達科学部で、そして全体会としての基調講演、シンポジウム、アトラクション、総会、懇親会は神戸大学百年記念館と瀧川記念館を予定しています。後者の会場は、神戸市が眺望できる絶好のスポットです。アトラクションは、兵庫県淡路島にある県立三原高校郷土部による「淡路人形浄瑠璃」の公演を依頼しています。三原高校郷土部は、太棹三味線を人間国宝鶴沢友路師匠から直伝され、数回の海外公演を行うなど、精力的で貴重な活動を続けてきている高校のクラブ活動です。ご期待ください。神戸は六甲山、異人館、灘五郷、有馬温泉、神戸ビーフにワインなど観光・グルメも満載です。学会を十分消化・堪能してからのツアーとして推薦します。(岩井正浩 記)

学会のオフィシャルロゴマーク及び

『音楽教育実践ジャーナル』表紙デザイン募集

4月26日に開催された理事会で、学会の英語表記が Japanese Music Education Society に変更されました。これに伴い、新たに学会のオフィシャルロゴマークを公募します。学会のオフィシャルレター、発行物などさまざまなものに今後使われていくものです。

また、8月末に創刊が予定されている第二学会誌『音楽教育実践ジャーナル』の表紙のデザインも募集します。いずれも、ふるってご応募ください。宛先は事務局、締切は平成15年7月末日(必着)!

平成14年度修士論文題目

岩手大学

- 熊谷 佳展 箏を活用した音楽教育の可能性を探る
～ 養護学校を含む新しい音楽活動の提案～
- 柴谷いく美 少年院における音楽教育
～ 音楽あそび・音楽づくりの実践分析と
データ分析による考察～
- 横内 愛理 西洋発声と邦楽発声の比較とその指導法についての一考察
～ 頭声的発声と胸声的発声についての比較から～

山形大学

- 中村 明子 フランツ・シューベルトのピアノ作品研究
～ レントラーとワルツの比較分析を中心に～
- 松淵 啓子 C. M. V. ウェーバーのクラリネット作品研究
～ 《クラリネットのためのコンチェルティーノ》J. 109 を中心として～
- 遊佐 智美 J. ブラームス《51の練習曲》に関する一考察

宇都宮大学

- 井上 悠子 戦後我が国の音楽科教育における「基礎・基本概念」
～ 歴史的変遷を辿って～
- 田中久美子 J. S. バッハのクラヴィーア音楽におけるテンポ・拍節について
～ F. ロスチャイルド説をめぐって～

茨城大学

- 松本 佳子 リコーダーを用いた「自己表現活動」の研究
- 入山 克巳 モノドラマを応用した合唱教育の研究
～ より豊かな表現力を求める指導のあり方～
- 花田 喜龍 「創造的音楽学習」を取り入れた系統的カリキュラムの構築

群馬大学

- 真砂 恵子 学校音楽教育におけるピアノ教育との連関と指導法の考察

埼玉大学

- 水野 絵美 鍵盤楽曲による鑑賞指導に関する一考察
～ 美的享受を重視した聴取活動の実現にむけて～
- 清水 善雄 表現の可能性を広げる音楽授業の構想
～ 読譜とその指導をめぐって～

千葉大学

- 吉田麻理子 中学校音楽科授業に関する研究
～ 現代における子どもの日常生活を重視して～
- 西田 理恵 小学校における豊かな心を育む音楽活動について
～ 「総合的な学習の時間」とのかかわりを持った音楽活動～
- 根本 愛子 音楽科における教材開発と評価のあり方
～ 音楽劇を教材とした学習活動を通して～
- 桑久保那美 小学校低学年に適した音感・歌唱指導について

東京芸術大学

- 山原麻紀子 音楽鑑賞教育の方法論に関する一考察
～ 受容美学の視点から～

- 安藤 珠希 学校音楽における箏の指導に関する一考察
 宮崎 桃子 鷲見三郎とその教本に関する一考察
 永島 茜 フランスの音楽科教育に関する研究
 ~ 学校外教育力の活用の視点から ~

東京学芸大学

- 石川 裕司 イギリスの音楽検定に関する研究
 島田 沙苗 1960~70年代の音楽科教育における系統的指導の展開
 井村 智生 中学校における歌唱指導に関する考察
 石原 麻由 学校行事における民謡・民俗芸能の研究
 山崎 佳奈 学校教育における総合音楽劇の事例研究
 山内 雅子 日本の伝統的な歌の指導法の研究
 ~ 小学校における実践を通して ~
 金 士 妍 中国と日本の中学校音楽鑑賞教育の比較研究
 ~ 北京市と東京都の事例から ~
 任 暁 剛 21世紀の中国における音楽科国際理解指導計画の構想について
 ~ 日本・中国における初等・中等音楽科教育の比較を通して ~

洗足学園大学

- 系数 牧恵 中学校歌唱教材におけるピアノ伴奏についての一考察
 ~ 編曲の指導性に視点を当てて ~
 鍵渡 有華 音楽の基礎的能力を育成する指導法の研究
 ~ 幼児期の音楽学習の在り方に視点をあてて ~
 島津 幸子 異文化理解におけるイメージの働き
 ~ 「諸民族の音楽」の学習を通して ~
 宮崎 睦子 点字楽譜表記方法を考える
 ~ 点字楽譜の読譜に感覚的把握を求めて ~

国立音楽大学

- 浅井希久子 亀岳中学校生徒たちによる田代神楽の継承活動
 石川 薫 国民学校令に至るまでの音楽鑑賞教育に対する認識
 ~ 昭和10年代前半を中心に ~

横浜国立大学

- 小平 容子 言語障害児(者)に対する音楽活動の可能性
 ~ Journal of Music Therapy にみる流れと分析 ~
 山本麻美子 今日の音楽科の在り方に関する考察
 ~ 「Praxis 的音楽科教育哲学」を中心として ~
 畑山美穂子 創造性の育成における学校教育と日常性の関わりについて
 ~ 学習指導要領「音楽をつくって表現できるようにする」をめぐる ~
 加藤 悟美 音楽科教育における即興表現に関する一考察
 岡田 麻里 「総合的な学習の時間」に音楽科が関わる可能性についての考察
 ~ 音楽劇実践報告を基に ~
 岡田久美子 小学校中・高学年の発声指導に関する一考察

新潟大学

- 渡邊 恭子 公文化施設のアウトリーチ活動
 ~ 小出郷文化会館の独自性を探る ~

上越教育大学

- 佐藤 孝子 中学校音楽授業におけるゴスペル・ソングの教材化についての研究
～新しい合唱指導への提案～
- 笛木 晶子 子どもの学びの意欲をみたす小学校音楽科授業の研究
～子ども・大学生・教師の実態調査を踏まえて～
- 宮川 伸江 「非教材」としての郷土芸能
～小学校における音楽活動の在り方について～
- 小関 崇司 音楽科学習指導案の史的研究
～明治期から現代までの変遷～
- 塚本 倫子 音楽科における表現としての日本の太鼓の研究
- 松嶋佐和子 子どもがルールを見つけて音楽をつくる学習
- 森川 昌恵 中等音楽科教育における自己教育力の育成
～生涯学習の視点から～

金沢大学

- 石田 静香 「癒し」音楽の研究 CD『feel』to『image』の場合
- 松本 順子 ユニオン・ジャックをまとったミカド「宮さん」と「ミヤサマ」

信州大学

- 小林 美季 戦後童謡研究
～中田喜直の童謡作品の分析を中心に～
- 小松 徹郎 学校教育における音楽劇応用の方向性を探る
～音楽劇の教材としての成立～
- 斎藤あかね 《創造的音楽学習》の意義と課題
～イギリスの音楽教科書「All Kinds of Music」の分析を中心に～
- 李 穎 中国の小学校における器楽教育の展望
～日本の小学校器楽教育との比較から～

富山大学

- 神田 聖子 F. プーランクの室内楽曲を解析する
～調性を定量する試み～
- 野上 治子 これからの音楽科教育と電子メディアの活用
～中学校音楽科の多様な授業展開を目指して～
- 宮下 芳明 分散和音の形態とその効果
- 村田 千春 小学校音楽科教員における雅楽の導入についての提言

岐阜大学

- 北村多佳子 筋肉に着目したチェロ演奏における効果的練習方法についての考察
～自由に動く左手指をつくるために～
- 渡邊 越子 小学校における「共に学ぶ」音楽教育に関する一考察
～健常児と障害児による交流授業から～
- 小川恵理子 ベッリーニ作曲ソプラノのアリアに関する考察
～カヴァレッタ部分に見られるアジリタの分析から～
- 石神 美帆 フランシス・プーランク《ナゼルの夜》の演奏解釈に関する一考察
- 兼松 直美 ソプラノ・アリアにおけるポルタメントの一考察

静岡大学

- 山本 紀子 歌詞と曲のイメージを中心とした聴取プロセス
～音楽経験による相異～

- 海野 真弓 ピエール＝マックス・デュボワのサクソフォン作品における作風に関する考察
～「サクソフォン協奏曲第2番」とそれ以前の作品との比較を中心に～
- 長崎 早苗 障害のある生徒の音楽的なあられ
～自閉症の生徒の事例を通して～
- 堀川 結紀 「静岡県民謡緊急調査」のデータに基づく音楽的分析と資料整理
- 伊藤智佳子 越境するアイルランド音楽
～日本への伝播と受容・伝承の実態～

三重大学

- 飯塚 育代 換声点の定義に関する問題点とその解決に向けて
- 服部あぐる 生涯学習の視点からみたピアノ教育
- 朴 貞宣 多文化理解と教育
～関係性の視点からみた授業における自己文化の再構築～
- 堀井 真一 大学及び短期大学における『伴奏法』の講義内容に関する調査・研究とその課題

愛知教育大学

- 丹羽亜季子 沖縄民謡の発声，発音，節まわし，およびその指導法についての研究

京都女子大学

- 三村 晶子 管弦楽法による表現の可能性
～リムスキー＝コルサコフの『管弦法原理』の検討と自作の二管編成による管弦楽作品を通して～
- 宮本 絵真 F. プーランク《人間の声》の分析的研究
- 村田 睦美 R. シューマン《謝肉祭》作品9の分析と解釈
～“Asch”の文字によるモチーフを中心に～

大阪教育大学

- 川尻 智春 音楽づくりの授業における教師の指導性の在り方
～作品発表段階の教師の働きに注目して～
- 岸 美砂子 思春期における即興表現活動の果たす役割
～中学校音楽科の授業実践の分析を通して～
- 韓 美 暎 学校音楽教育における伝統音楽の学習に関する一考察
～韓・日の中学校音楽教育の比較を通して～
- 栗山 葉子 音楽教育における打楽器の位置付けとその重要性
～小学校音楽の教科書分析を通して～
- 三木由香子 わらべうたを起点とする合唱教育の可能性
～ハンガリーと日本の歌唱・合唱教育の比較検討を通して～

大阪芸術大学

- 世良 恭子 ソルフェージュについて
～ヒンデミット「音楽家の基礎練習」を中心に～

兵庫教育大学

- 名須 川博 音楽における情動喚起と中学校音楽教育
- 高見 仁志 小学校音楽科における教師の資質能力形成に関する研究
～教師の意志決定を手がかりとして～

神戸大学

- 杭田 清子 創造的音楽療法における遊技療法的意義
- 森 万由美 戦後の津軽三味線の展開と高橋竹山
- 法田 典子 金井喜久子による沖縄音楽の展開

～ 沖縄民謡を素材にした歌曲創作の試み～

榎原 聡子 1980年代以降の論争にみるノルウェーの民俗音楽をめぐる諸相

松村 美穂 阿波踊の囃子における笛の役割に関する研究

西村亜希子 音楽療法が高齢者における日常ストレス状態に及ぼす影響

村上 仁美 戦前の日本における印象派音楽受容について

岡山大学

下山 陽子 音楽をめぐる文化的背景を明らかにする一提言

～ 琴を素材にして～

広島大学

石黒美代子 生涯学習社会に立脚した地域における芸術文化活動の創造

～ アートマネジメントによるモデル検討を通して～

井手口彰典 仮想化する音楽

～ MIDI 音楽の受容と消費を中心に～

緒方 深恵 生涯学習施設としての学校施設の活用に関する研究

～ 府中町における音楽室の開放をめぐる～

柿内 光博 ピアノ教育における「支持的風土」の意義について

～ グループレッスンの観察を通して～

金森 信午 生徒が「たのしく」音楽にかかわることができる中学校音楽科の授業の研究

古賀 弘之 ネガティブな感情価の高い音楽に対する同質感の変化

～ 抑うつ的音楽の連続聴取による気分変化の検討～

志賀有希子 アーティスト、作品、観客の関係に関する研究

～ インタラクティブ・アートをモデルとして～

高田 艶子 痴呆症高齢者を対象とした音楽療法の評価手法に関する研究

高田 陽子 「カンツォーネ」の成立と変遷

～ イタリア民謡からポピュラー音楽へ～

土井 広一 多文化共生社会における音楽教育

～ 日本の現状と教師の認識に関する調査研究～

藤野 久美 J-POP 音楽文化と思春期の若者のアイデンティティに関する一考察

前野さやか 歌唱教材における歌詞の時代的变化

～ 初等音楽科教育を中心に～

三浦栄里子 クラウス・ルンツェのピアノ教育

～ 現代音楽的手法を用いた教則本における比較～

八倉 香織 音楽科の協同的学習における教師の支援の在り方

～ 小学生のグループ活動における言語的、音楽的コミュニケーションの分析を通して～

渡辺 奈緒 『ペース・メソッド研究会ジャーナル』に見る現状と今後の課題

山口大学

佐々木 恵 音楽科教育における環境音と教育内容の再構築

～ サウンド・スケープを手がかりとして～

愛媛大学

石丸 景子 ショパンのピアノ音楽の演奏法

～ マズルカを中心として～

鳴門教育大学

上田 光江 小学校の音楽科教育における創造的な音楽づくりの学習に関する研究

- 久保 雅子 ~総合的な学習への発展の可能性をみすえた学習指導のあり方を視点として~
 小学校低学年の子どもたちの生きる力をゆさぶる音楽劇の教材としての価値内容とその指導法に関する研究
- 澁谷 朝子 ~他者との出会いと分かち合いを促す音楽授業の構想を視点として~
 音楽が関わった「総合的な学習」の指導計画の編成と実践的展開に関する研究
- 野元貴代美 小学校低学年の音楽授業における諸民族の音楽の陶冶財としての特性とその学習指導に関する研究
- 松島 香織 ~身体表現を伴う遊び歌を中心にした音楽授業の構想とその吟味を中心に~
 音楽科の指導内容における内容的側面に対する感受の変容に関する実践的研究
 ~中学校の鑑賞活動を通して~
- 高知大学
 味府 美香 音楽づくりにおける視覚的・言語的要素の導入
 ~図形楽譜を中心に~
- 福岡教育大学
 田井久美子 音楽科教育における日本伝統音楽の教材化と指導方法に関する研究
 ~山田隆の実践に基づいて~
- 佐賀大学
 吉田 敬之 小学校音楽における「創作」の研究
 水頭 陽子 ピアノ教育における導入期の指導法研究
 ~コダーイ、スズキ、カワイシステムを中心として~
- 長崎大学
 岩瀬 由佳 小学校における郷土の音楽の教材化に関する研究
 田口麻紀子 音楽科における学習形態と学習効果についての研究
 ~小学校の授業観察を通して~
- 福田 知子 小学校低学年における身体表現の音楽的效果についての研究
- 熊本大学
 上村紗和子 音楽科教育における日本音楽の鑑賞方法についての一考察
 新上 智子 F. リストのソナタにおける単一楽章化についての一考察
- 宮崎大学
 中西由紀子 音楽教師の自己効力感を規定する要因
 ~中学校音楽科教員に対する調査をもとに~
 新名佐知子 コラボレーションによる子どもの学びの場構築への試み
 ~学校外での音や画像による体験活動を通して~
- 鹿児島大学
 坂本 多恵 生涯学習社会における音楽教育のあり方
 ~生活の中に根づく学校音楽とは~
 西元 久明 小原国芳の全人教育における音楽
 ~日本におけるベートーヴェン「第九」受容の一側面~
- 琉球大学
 赤繁 陽子 公共ホールにおける地域教育の一形態
 ~勝連町きむたかホールの活動実態とその分析~
 静 香穂利 モーツァルトの作曲語法における諸表現の研究
 中元 綾乃 アスペルガー症候群を呈するS児のピアノ・レッスン・プログラム

住所・所属変更及び新入会員住所（2003年2月承認まで）

2000年度版 No.9 5月31日現在

ニュースレターweb版では
個人情報に関する記事は削除しています。

藤川一芳先生のご逝去を悼む



常任理事 重嶋博（上越教育大学）

永年，本学会の会員であられた藤川一芳先生が，平成15年3月19日午前7時，脳梗塞のため甲府脳神経外科病院でご逝去されました。先生は，平成14年3月福井大学名誉教授になられ，同年3月14日に多くの教え子たち，大学関係者，地域の方々，合唱連盟の関係者によって「藤川一芳退官記念祝賀会」が盛大に行われました。ご退官後の4月から放送大学福井地域学習センターに勤務され，平成15年3月14日の放送大学卒業式の朝のことでした。退官されて一年を迎えられることなくご逝去されましたことは，先生からご指導をいただき，お世話をいただいた者，皆が言葉を失い，ただ先生のご冥福をお祈りするのみとなりました。

藤川先生は，本学会の理事・北陸地区代表理事を永く務められ，学会誌の編集員としてもご尽力されました。本学会の活性化のために「地区例会」が開催され，当初から若い研究者や，学校現場の教師へのご指導と激励，温かいお世話をされ，先導的なお役目を果たされました。先生は，昭和

48年福井大学に赴任される前は同大学附属中学校に勤務されており，音楽教育の実践に基づく研究を深められ，平成7年「音楽科実践事例の分析～実践研究の質的向上をめざして」など，音楽教育の実践と理論の統合を追究され，多くのご示唆をいただきました。また，懇親会の席では，愉快的話も交えられ「権威じゃないよ，実践，実績が大事だよ」を強調され，若い者の話をよく聞いてくださり，実践や研究，私的なことまでも親身になってお教えくださいました。そのお人柄と実績のゆえに（社）全日本合唱連盟副理事長，（財）福井県文化振興事業団理事を歴任され，昭和62年には福井県文化芸術賞を受賞されました。大学運営でも，教育実践研究指導センター長，評議員，附属中学校長，学生部長，学長補佐などを歴任されました。

本学会をはじめ多くの人々と地域に多大な貢献をされた藤川一芳先生に深甚なる感謝を申し上げ，あらためてご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

*** 編集後記 *****

ニュースレター12号をお送りします。新しく創刊される『音楽教育実践ジャーナル』について，夏期ワークショップのお知らせ，そして秋の第34回神戸大会のお知らせなど，学会の事業についての記事が満載となりました。会員のみなさまに多数参加していただき，それぞれの催しが成功することを祈りながら，編集作業をさせていただきました。（坪能由紀子）

年度のはじめということもあって，今回のニュースレターは刷り上がり22ページになってしまいました。修士論文題目に6ページ，住所変更5ページというのはまさに新年度ならではのものでしょう。毎年4月になると「新年度あけましておめでとうございます」という葉書を送ってくる友人がいますが，たしかに私たち教員にとっては4月が1年のスタートのようなものです。...と思っている間にもう2ヶ月が経ってしまいました。それにしても時間の経過が年齢とともに加速していくように感じる今日この頃です。（北山敦康）

国際会議案内

第4回アジア・太平洋音楽教育シンポジウム SARSを越えて開催へ



SARS問題が勃発して、その開催が危ぶまれていた第4回のアジア・太平洋音楽教育シンポジウム（The 4th Asia-Pacific Symposium on Music Education Research）は、WHOの渡航自粛勧告解除を受けて予定どおり開催の運びとなりました。詳細は下記のホームページをご覧ください。

http://www.ied.edu.hk/apsmer/home_e.htm

第26回 ISME 世界大会（2004年7月11日～16日）

スペイン、カナリア諸島テネリフェ*

～論文、ラウンドテーブル企画、演奏発表、ワークショップの発表募集～



第26回 ISME 大会の発表締め切りが9月1日になっております。個人の研究発表、ラウンドテーブルを企画しての発表、その他、演奏やワークショップの発表などいろいろ企画されております。詳細は、下記のホームページをご覧ください。

http://www.isme2004.com/home_english.html

*ヨーロッパ有数のリゾートと言われるだけあって夏のテネリフェは、毎日が快晴、実にさわやかな気候です。食べるなら絶対シーフード、意外と赤ワインとよくあいます。第27回大会は北京が有力でしたが、急きょマレーシアのクアラ・ルンブルに変更される可能性が高くなってきました。

【日本音楽教育学会役員（2002-2004年度）】

会長：村尾忠廣 副会長：平井建二・坪能由紀子

常任理事：筒石賢昭（事務局長）、奥忍・藤沢章彦・北山敦康（総務）、
加藤富美子・島崎篤子・丸山忠璋（企画）重嶋博・杉江淑子（会計）

理事：浅井良之（北海道）、丸林実千代（東北）、伊藤誠・今川恭子・
小山真紀・阪井恵・山本文茂（関東）、伊野義博（北陸）、南曜子（東海）、
中原昭哉・竹内俊一（近畿）、野波健彦・吉富功修（中国）、
田邊隆（四国）、木村次宏（九州）

【事務局住所】 184-0015 東京都小金井市貫井北町 2-5-22 ハイツシーダ 1-102

【私 書 箱】 184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26

Tel/Fax : 042-381-3562 e-mail : onkyoiku@remus.dti.ne.jp

<http://www.remus.dti.ne.jp/onkyoiku/index.html>